西鶴賀便り

発行
長野市中心市街地活性化協議会
長野県建築士会ながの支部
協力
西鶴賀町

エビスパンの田中勲さん 今月引退し、新たな門出へ

西鶴賀通りで日々、おいしいパンと気持ちのよい接客で町内外の人々を迎えている「エビスパン」。特集のリクエストが来るくらい絶大な支持がある町の顔的パン屋さんですが、そのエビスパンの顔の一人、田中勲さん(80)が、今月末で引退されるとか。お世話になった感謝を込めてお話を伺ってきました。

ガキの頃は路地でよく遊んだね。鬼ごっこしたり、めんこしたり。冬になると西鶴賀通りに水まいてツルツルにしてな(笑)下駄スケートもよくしてた。ハ百屋のばばあに灰まかれて散々怒られてよ(笑)怒られながらまた水まいて遊んだよ。店ができてからは「勉強より手伝え！」って、朝から店を手伝って学校に行ってた。子どもながらに「商売って大変だな」と親の背中を見て感じたよ。戦後間もなかったから、何作っても売れる時代。パートさんも住み込みで二人雇ってた。この辺は官庁街で、法務局・財務局・警察署・統計局・日本無線…ほかにもいろいろあって、そこら中配達して回ったよ。お袋なんて頭が良くてさ、電通の長野支部に行って何百人の注文をメモ取らずに聞いてきて配達して。忙しかったけど、おもしろかったね。人間の中身の豊かさっていうのかな、そういうのが昔はあったよね。

〜 勲さんとエビスパンの年表 〜

1941年 太平洋戦争開戦。父、出兵。

1942年 勲さん椎堂で生まれる

出兵していた父が帰還し、東京の「きむらパン屋」へ修業に。その後、第一法規の故・田中しげや氏のいとこが馬喰町で「エビスパン」を開業するとのことで手伝うも、空襲で全焼。

1945年 終戦

父、「エビスパン」の名前をもらい長野に戻る。進駐軍が宿泊する志賀高原のホテルベーカリーに住み込みで勤め、月3〜4回、食料を持って家族の元へ帰る日々。その後、緑町のフジナワ電気の社長が始める パン屋に誘われ、勤め始める。

1945年 西鶴賀に転居

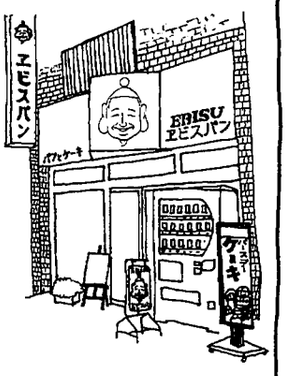
1948年 鍋屋田小学校入学

1951年 母がひとりで、今の信濃屋さんの前の家で家内工業のパン屋をはじめる

1954年 父が石窯を作り、現在の土地に「エビスパン」開業

- 柳町中学校入学
- 須坂商業高校入学
- 高校卒業後、浅草の「ドーメルきむらや」へ修業に出る

1962年 長野に戻り、成人式に出席。以降、エビスパンで60年間働く！



60年間、いい時も悪い時もあったけど、悪い時は思い出せねぇな。あんまりなかったんだと思う。俺はのほほん・あっけらかんとした人間だからさ。いい時も悪い時も、考えすぎないようにしてるの考えたっていいことないだろ？ ただ「努力」は大切にしてきたかな。努力努力で60年間働いてきた。努力なしではお店や家族、仲間ともやってこられなかったと思う。商店会長も20年以上やったけど、自分もそうだし役員のみなさんの努力もあって、成り立ってきたと思ってる。来月からは、朝はラジオ体操して散歩して。女房が好きで植物がたくさん植わっている庭があるから、その手入れなんかをしてゆっくりしたいね。あとは女房とふたり、歩けるうちにあちこち回ってみようとも思ってる。今までも日曜日のたびにけっこう自由には行かせてもらってたけどね。友人には「おまえな、引退したら早くボケるぞ」と言われているから気をつけます(笑)

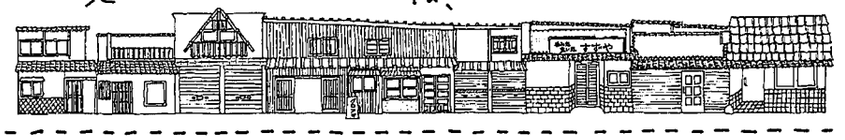
時々聞かれた西鶴賀エリアリノベーションQ&A

Q. 何のためにしているの？

A. 長野市の「遊休不動産(＝空き家や土地など)活用事業」の一環でしています。似たような街並みが広がる昨今に、西鶴賀通りには今では珍しい長屋が軒を連ね、人やお店、街並みに、この町ならではの個性があります。「街並み」は町の資産でもあるので、その資産がより活かされることを目指しています。出店や来街者が増えることで、長野市の中心市街地全体の活性化にもつながると考えています。

Q. 「エリアリノベーション」って、「再開発」のこと？

A. 「再開発」は、今あるものをリセットして計画的に再構築することです。「エリアリノベーション」は、今あるものの良さを活かして、全体的な魅力がさらに磨かれることを目指すものです。なので、ふたつの言葉の意味は真逆です。



いきなりですが【年度末特集!!】

長野市中心市街地活性化協議会
☎026-267-5323 ✉info@machidukuri-nagano.jp
ウェブサイト「まちくらしたてもの案内所」